

「全鍍連」 2020年 11月号 理事長のよこがお

京都府鍍金工業組合 理事長 北村 隆幸 (メテック㈱ 代表取締役社長)

「バイクとお遍路」



新型コロナ・ウィルス禍という状況の中、皆様におかれましては、いろいろとご苦勞の中、事業運営をされていることに対し、ご推察申し上げます。少しでも早い時期に状況が好転することを心より、願っております。

私は昨年還暦を迎えましたが、孔子の言葉を借りると「五十にして天命を知る」「六十にして耳順う」となっています。人間はその年なりに成長していかなければならないのですが、私は人と比べて、やることが少し遅いようです。今年であれば人生のことを理解し、自分の本分に取り組まなければならない時期ではありますが、年甲斐もなく55歳の時に中高年若葉ライダーになりました。愛車はカワサキのNinja-400Rです。年間走行距離は約3,000kmですからたいしたことはないのですが、どうして、今更バイクに乗り始めたのか？私は若いときには親にも反対されたこともあり、乗らないで過ごしてきました。40歳の時に高校時代のホームステイ（米国 ペンシルバニア州）先の米国人にバイクの面白さを聞いて、友人にさせてもらった昔の感覚がよみがえってきました。

帰国後、バイクの免許を取りたいと家内を説得し、約十数年が過ぎました。55歳の時、息子も二輪免許を取り、バイクに乗っていましたので、家族にも何とか許可を得て教習所に通い、無事免許を取得できました。しかし、バイクは免許を取得してもすぐに自由に乗れるようになるわけではありません。何度も練習会で腕を磨き、ようやく公道で運転できるようになりました。バイクは車の倍くらい疲れますし、体が冷えるので、コンビニのありがたさを感じるようになりました。

そういう中で、挑戦しようと思いついたのが、四国八十八カ所お遍路旅です。最初は2016年順打ちで別格二十霊場も一緒に回りました。別格霊場は比較的へんぴな場所にありますが、参拝者も少なく私は気に入っています。

2017年には北海道八十八カ所霊場も廻りました。NHKのドキュメント72時間「最北端のバス停で」で年末に宗谷岬に集まる人の物語を見たのがきっかけです。舞鶴から小樽までフェリーでわたり、小樽から宗谷岬までオロロンラインを走りました。

北海道八十八カ所霊場の歴史は新しく、納経所も既に書かれた御朱印を受け取りますがたまに人がおられる場合は話し相手やお接待をして頂けます。飲み物とケーキやメロンを出して頂いたこともありますし、途中でおなががすくだろうとおにぎりを頂いたこともあります。

四国も北海道もお遍路では人の心の温かさを感じ、元気づけられます。今では、新型コロナ・ウィルスの影響で人との距離が遠くなっていますが、距離が離れても心の距離は遠くならないようにしなければと思っています。